

# 令和4年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査－1号)

農林総合研究センター  
令和4年5月18日調査

## 気象経過

< 平年対比 >

### 【平均気温】

- ・ 4月上旬は、金沢、輪島ともに高かった（平年差：金沢+1.0℃、輪島+0.6℃）。
- ・ 4月中旬は、金沢はかなり高く、輪島は高かった（平年差：金沢+1.5℃、輪島+1.0℃）。
- ・ 4月下旬は、金沢、輪島ともに高かった（平年差：金沢+1.3℃、輪島+1.4℃）。
- ・ 5月上旬は、金沢、輪島ともに低かった（平年差：金沢-0.8℃、輪島-1.0℃）。

### 【日照時間】

- ・ 4月上旬は、金沢、輪島ともにかなり多かった（平年比：金沢 174%、輪島 163%）。
- ・ 4月中旬は、金沢、輪島ともに多かった（平年比：金沢 118%、輪島 119%）。
- ・ 4月下旬は、金沢はかなり少なく、輪島は少なかった（平年比：金沢 69%、輪島 90%）。
- ・ 5月上旬は、金沢、輪島ともにかなり多かった（平年比：金沢 148%、輪島 144%）。

### 【降水量】

- ・ 4月上旬は、金沢、輪島ともにかなり少なかった（平年比：金沢 48%、輪島 43%）。
- ・ 4月中旬は、金沢、輪島ともに少なかった（平年比：金沢 66%、輪島 52%）。
- ・ 4月下旬は、金沢は並、輪島は少なかった（平年比：金沢 107%、輪島 69%）。
- ・ 5月上旬は、金沢、輪島ともにかなり少なかった（平年比：金沢 48%、輪島 40%）。

### 【1ヶ月予報】

5月12日発表の1か月予報（5月14日～6月13日）では、天気は数日の周期で変わりますが、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並または低い確率ともに40%、2週目は平年並の確率50%、3～4週目は、高い確率40%です。

## 生育概況等

### 【育 苗】

1. 播種は3月末から開始され、出芽揃いは概ね良好であった。4月は気温が平年より高く、日照時間は4月上中旬が平年より多く、下旬は少なく経過したものの、苗の生育は概ね順調となった。
2. 苗丈は、コシヒカリ、ゆめみづほともに平年と比べ長く、ひやくまん穀は近年に比べやや長かった。第1鞘高長は、コシヒカリは平年並、ゆめみづほは平年と比べて長く、ひやくまん穀は近年と比べ長くなった。
3. 乾物重は、コシヒカリで平年に比べ重く、ゆめみづほとひやくまん穀は平年及び近年と比べてやや軽くなった。充実度はコシヒカリが加賀地区で平年並、能登地区は高く、ゆめみづほ及びひやくまん穀ともに加賀地区でやや低く、能登地区は平年並であった。

### 【本田の生育】

1. 田植始期は、加賀地区で4月26日、能登地区で4月29日、田植盛期は、加賀地区で5月3日頃、能登地区で5月5日頃となり、県全体の田植盛期は5月4日頃と平年並で、前年より1日程度早くなった。
2. 田植後は好天に恵まれ、活着及び生育は概ね順調である。一部のほ場で強風・低温による植傷みが見られる。
3. 草丈は、コシヒカリは平年並で能登地区はやや長く、ゆめみづほは平年並、ひやくまん穀は近年と比べて加賀地区でやや長く、能登地区で短くなっている。

コシヒカリ	：加賀 104%	能登 111%	県平均 107%
ゆめみづほ	：加賀 95%	能登 109%	県平均 99%
ひやくまん穀	：加賀 111%	能登 85%	県平均 99%

4. 葉数展開は、すべての品種で平年並及び近年並となっているが、コシヒカリは加賀地区で平年に比べ0.2葉少なく、ゆめみづほは能登地区で平年に比べ0.2葉少なく、ひやくまん穀は能登地区で平年に比べ0.2葉多くなっている。

コシヒカリ	：加賀-0.2葉	能登+0.1葉	県平均-0.1葉
ゆめみづほ	：加賀±0.0葉	能登-0.2葉	県平均-0.1葉
ひやくまん穀	：加賀-0.1葉	能登+0.2葉	県平均±0.0葉

### 【病害虫の発生状況】

イネミズゾウムシ、イネゾウムシによる食害が一部の地域で散見されている。雑草地における斑点米カメムシ類の生息数は並となっている。

## 当面の対策

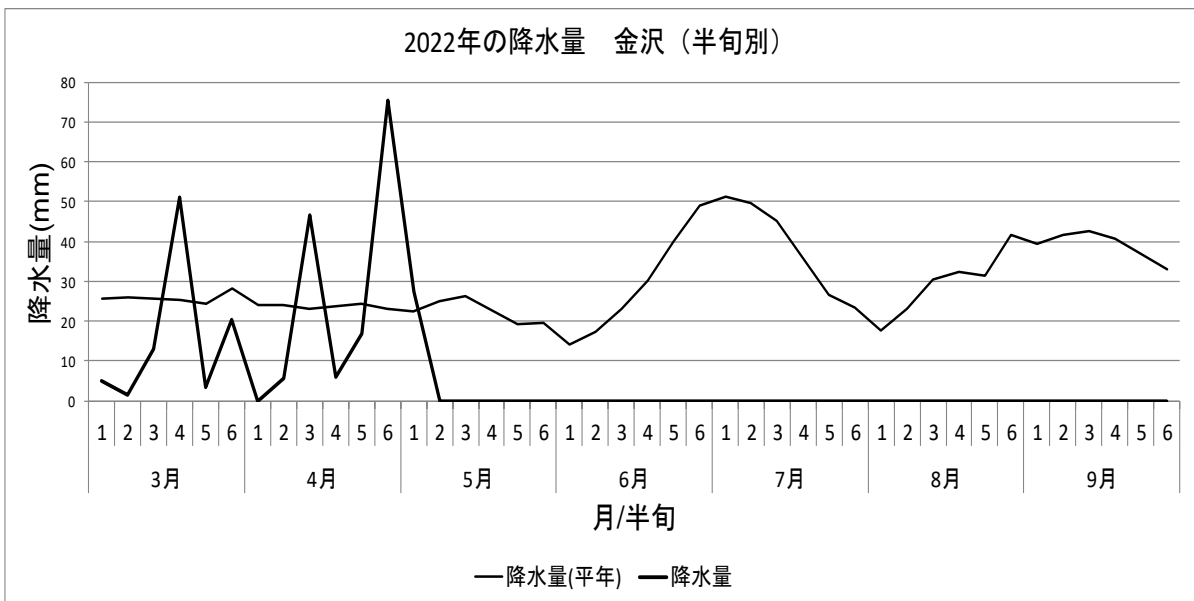
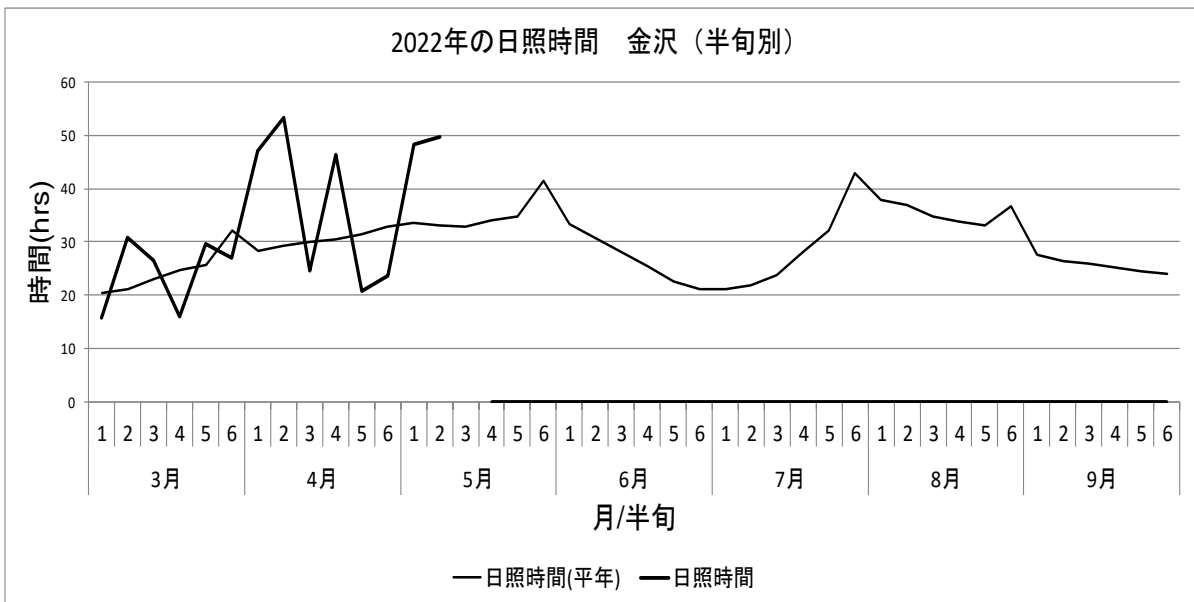
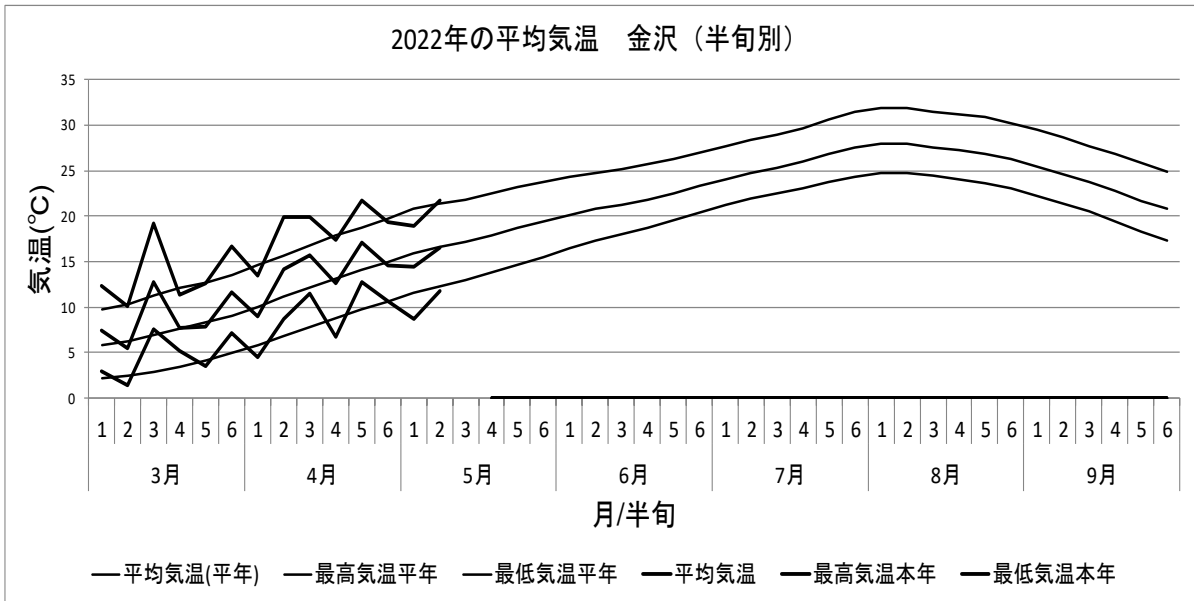
### 【本 田】

1. 活着後は浅水管理により地温を高め、良質分けつの確保に努める。
2. 用水が豊富な地域では好天時には**田干しを必ず行う。**
  - (1) 土壌中のガスを取り除き、**根の健全化**を図る。
  - (2) **中期除草剤散布前には必ず田干しを行ない、稲体の軟弱化を防止**する。
  - (3) **藻や表土剥離**が発生していると、分けつの発生が抑制されたり、中期除草剤の効果が期待どおり得られなかったりする場合があるため、**直ちに田干し**を行う。
3. 用水をため池等に依存している地域では、集落や地域単位で限られた水源の計画的な利用に努める。なお、関係機関との連携を密にし、ため池の状態を継続的に把握する。
4. 今後、気温の上昇に伴いノビエ等雑草の発生が早まる恐れがあることから、本田除草剤を適正な時期に遅れずに散布する。なお、除草剤散布後7日間は落水や掛け流しをしないこと。
5. 中干し開始は、田植後1ヶ月を目安に行うが、生育の早い圃場では目標茎数（目標穂数の約70%、1株当たり コシヒカリ：13～15本、ゆめみづほ：15～17本に達したら田植後1ヶ月を待たずに直ちに開始する。

### 【病害虫】

1. 補植苗の本田放置は、葉いもちの発生源となるので早急に取り除く。
2. イネミズゾウムシの防除（箱施薬）をしていない場合は、成虫が1株当たり0.3頭以上認められたら防除を行う。
3. イネドロオイムシの防除（箱施薬）をしていないほ場では、1株当たり1卵塊以上認められたら防除を行う。
4. 斑点米カメムシ類の発生を防止するため、生息場所となる農道、畦畔、休耕田及び遊休地等の雑草地の除草を徹底する。  
なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意する。

# 気象経過グラフ（金沢気象台）



# 気象経過グラフ (金沢気象台)

